

平成30年度 滋賀県立大学学部学位記授与式 学長式辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。滋賀県立大学を代表して、心よりお祝い申し上げます。

「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する、人が育つ大学」である滋賀県立大学は、平成25年度から「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」に取り組み、地域について学ぶカリキュラムに改革しました。今年度の卒業生は、この新しいカリキュラムで初めて学んだ学生たちです。

卒業生は、専門分野について理論と実践から深く学ぶとともに、地域の様々な資源や課題について互いに議論し学び合うことができました。そして、コミュニケーションを通して、既成観念にとらわれることなく課題解決の方策を構想でき、その構想を実践できる力である「変革力」を身に付けたものと確信しています。

卒業後、社会で活躍する方、また、大学院へ進学してさらに専門分野を深める方など、その進路は様々です。それぞれの進路において変革力を発揮するために、心がけて欲しいことが3つあります。

一つ目は、一生涯学び続けるということです。今日、すべての学問は、急速に進展しています。新しく進展した内容について、これまで学んできた基礎としっかり結びつけて理解することが必要です。

二つ目は、真理を探究することです。「伝統的なうそ」は、正しい現実がありそれを覆い隠すことですが、「現代のうそ」は、何が現実なのかという基準自体を破壊することだと、哲学者のハンナ・アーレントは言っています。これからは物事の判断基準をしっかりと持ち、「真理は何か」を常に考え続けることが大変重要な時代です。

三つ目は、人生の節目を大切にすることです。これから皆さんには、今まで過ごされた人生の数倍もの時間が待ち受けています。これは単調な時間の延長ではありません。人生にはいろいろな節目があります。今年は、改元という大きな節目の年です。それぞれの節目で過去を振り返り英気を養うことにより、新たな次のステップを踏み出してください。

大学で学ばれたことを礎に、これら3つのことを心掛けて、これからの急激に変化する予測不能な社会において、みずからの判断で、適切に対応することにより、実り豊かで後悔のない人生を送られることを願って、式辞とします。

平成31年3月21日

滋賀県立大学 学長 廣川 能嗣